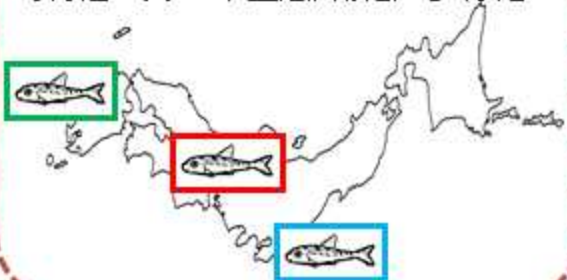


RF-0910 国内移殖による淡水魚類の遺伝子かく乱の現状把握 および遺伝子かく乱侵攻予測モデルの構築

背景

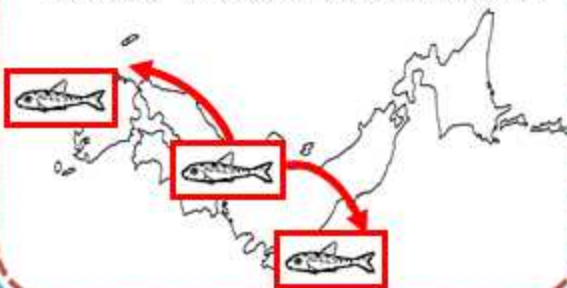
日本列島形成の数百万年の歴史の中で、同種であっても、地域ごとに遺伝的特性が異なり、生態、形態が多様化。



琵琶湖産アユ種苗、
ゲンゴロウブナ放流

他の魚種も混入して
各地に移動

遺伝子かく乱 → 地域固有性の喪失



問題点

- 1) 国外外来魚問題に比べて意識が薄い
- 2) 同一種内における遺伝子かく乱は目に見えない形で進んでいく
- 3) 研究事例が極めて少ない

研究の目標

生物多様性に深刻な影響を及ぼすにも関わらず、これまで極めて軽視されてきた国内での淡水魚類の大規模移殖放流に伴う「遺伝子かく乱」に着目

野外調査

遺伝子解析

分布情報解析

- ① 遺伝子かく乱の現状把握
- ② 地理情報データを駆使して遺伝子かく乱の侵攻予測モデルを構築

効果

- ・国内移殖の生物多様性への悪影響を具体的事例に基づいて啓発
- ・モデルを使い優先保全エリアを設定
- ・侵攻防止技術の開発

結果2

他地域で検証
および微修正

熊本

結果1

九州北部で
遺伝子かく乱
侵攻状況をモデル化



福岡



佐賀

かく乱頻度 (高 ■ ■ ■ 低)